

市長記者会見記録

日時：2016年6月23日（木）午後2時02分～2時29分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《舩添都知事辞職について①》

司会： それでは、ただいまより市長記者会見を始めます。本日は、市政一般となっております。

それでは、福田市長、ご登壇お願いします。

それでは、進行につきましては、幹事者様、よろしくをお願いします。

市長： よろしくをお願いします。

幹事社： すいません、幹事社です。1点だけ伺います。

今月21日付で東京都の舩添都知事が辞任しました。市長もコメントでは出されているんですけども、改めて都知事の辞任を受けての所感、それと次の都知事にふさわしいのはどんな人か、お願いします。

市長： そうですね。任期途中という意味では3代続けてになるんですね。任期途中ということで首都東京のトップが変わるということは大変残念なことであります。次の知事には、オリンピックを控えておりますし、日本の顔となるような人ですから、とはいっても、まだ東京はいろんな課題もたくさんあるところですので、実務能力というか、顔にもなり、それから実務能力のたけた人というふうなのがいいんじゃないかなと私は個人的には思っています。

幹事社： 何か具体的に名前が。

市長： いや、ないです。

幹事社： ありがとうございます。

《参議院議員選挙等について》

幹事社： きのう公示になりました参院選の件で。与党のほうは当然、アベノミクスを中心にどうやっていこうかということを中心に前面に出して、野党のほうは、どちらかというと、憲法の改正についてもちょっと表に出したいとか、そういう形の、きのうの一声を聞いていると、聞こえるんですが、市長から見て、今回の国政選挙に対する期

待というか、どんな感じで見えていらっしゃるか、所感をお伺いできますか。

市長： 難しいですね。よりかみ合った議論がこの選挙戦で行われることが、僕すごく期待しています。とにかく経済政策にしても、これからの格差の問題にしても、あるいは貧困の問題等々、さまざまな問題があるし、そういったところに与野党が批判の応酬じゃなく、かみ合った議論をしっかりとさせていただくことを望みます。

特にやっぱり今回、18歳選挙権で70年ぶりに選挙年齢が引き下げられたこともあって、市内でも2万人以上、2万3,000人ぐらいの18歳からの投票者が増えるわけでありますから、そういった意味では若者に対して、これからの日本はどうあるべきなんだという、今ある課題についてもどうしていくんだということを明確な政策議論がなされることを期待しています。

幹事社： 序盤としてはどうですか。まだ初日、1日しかたっていないんですが、序盤の各紙いろんな報道等をごらんになって、いかがでしょうか。

市長： 神奈川の場合は候補者が大変多いので、そういった意味では有権者の選択肢は非常に広いというふうに思いますので、そこは、何ていうか、神奈川の有権者は他のところよりも選択肢が広がっていいんじゃないかなというふうには思いますけど。

幹事社： ありがとうございます。各社どうぞ。

記者： 同じく参院選の質問なんですけど、どの政党に期待しているかというのと、神奈川選挙区ではどなたに期待しているか、複数候補者でも構いませんので、教えてくださいませんか。

市長： どの党に期待しているかというのは、参議院選挙ですから、政権に対するいわゆる中間評価的な部分の要素もあるんだと思います。ですから、それぞれの主要政党に明快な政策議論をしてもらうことを期待しています。で、どこの候補者にとというのは特にございません。

記者： 今回、争点の1つになっているのがアベノミクスの成否についての評価だと思うんですが、殊、川崎市の経済、地元の経済に対する影響から見て、現在、安倍政権が進めている経済政策というのはポジティブな影響を与えていると思いますか、それともさほど影響はないか。ないしは悪影響はないか。その辺はどうですか。

市長： 私も中小企業の団体などもよく意見交換をさせていただくような会合にも出させていただいておりますけれども、まだ、何ていうか、明確な実感というふうなところにはまだ至っていないよねというのが私が聞いている声です。ですから、評価はしているけれども、まだ実感が伴っていないのではないかなというのが、地元の経済、特に中小企業の皆さんの声ではないかなというふうには思います。

記者： 市長として、どういうふうな経済対策をとることを期待されますか。どういう経済政策を打ち出している政党なり候補者を評価したいというふうに考えておられますか。

市長： それは非常に難しい議論なんですけど、やっぱり日本がこの超少子高齢社会ですから、それに大変な財政が、出費がこれからも増大していくわけで、そのためにはどう考えても力強い経済をつくっていかなければならないということは間違いありませんから、そういった意味では、日本の強みというふうなのを生かしつつ、何か新たなイノベーションを生むような、そういった経済政策みたいなものを期待したいなと。それは川崎市が進めているものと一致しておりますので、そういったことを国としては進めていただきたいなというふうには思っております。

記者： 先ほどの参院選の関係なんですけど、選挙権年齢の引き下げということで、今回18歳以上に引き下げられたということで、18歳というと、なかなか政治にどうやって向き合うとか、実感としてなかなかわからなかったりとか、難しいところもあると思うんですけど、例えば市長が18歳のときに、ご自分のことを思い起こすと、どうなのかわからないんですけど、若い方が今回の選挙にどうやって向き合ったらいいのかとか、どういうふうに考えたらいいのかというのを、何か市長のお立場からメッセージ的なものがあれば一言いただければ。

市長： 市政にしても国政にしても、やっぱり生活にある意味直結しているんだということを若者たちには見てほしいというか、この前も市議会を高校生が傍聴されましたけれども、僕は報道でしか見ていませんが、その後も議長、副議長と意見交換されたというふうに聞いていて、身近な話題からかなり難しい話まで、私たちの生活にこんなかかわっているのかというのを見ていただいたということは、僕はすごくいいことだと思うので、ぜひこれを機会に、市議会にもあるいは国会にも若者たちが傍聴に行ったりとか、ネットで検索してみたりとか、新聞をもちろん読むとかっていうふうな、そういうことをやってほしいなと。ほんとに参議院選挙も、任期6年で3年ごとにありますけども、3年に1回しかない大切ないい機会ですから、この機会に集中的に勉強してもらいたいなというふうには思います。

記者： 全体的な傾向としては、低投票率というのが非常に問題だと思うんですけども、その辺に関してはどうですか。市長としては、川崎市内も低い投票率だと思うんですけども。

市長： そうですね。

記者： その辺はどうやって上げていこうとか、またどういうふうにしていこうとい

うふうなお考えがあれば聞かせください。

市長： そういった意味では、選管もいろいろ工夫を凝らしているとは思いますが、けれども、やっぱり選管だけじゃない取り組みというのがすごく必要だと思います。民間ベースでも、いろんな投票に行こうじゃないですけど、そういうキャンペーンをやったり、あるいはメディアの皆さん含めて、みんなで投票に行こうというふうなキャンペーンをやっぱり盛り上げていただくことが大切なんじゃないかなと思います。

記者： 内容がかなりかぶってしまうんですけども、18歳選挙権、引き下げに関してなんですけれども、市の選管さんのほうでは18歳未満の子にも投票所に行ってみようという独自のキャンペーンですとか、そういったものを企画していると思うんですが、そういったことについて市長はどう評価されますか。

市長： 僕はやっぱり、自分の親が投票に行く、行っているんだという、そういう習慣というのは、それを実際に見せるという行為ってとても大事なことだと思います。

私も投票へ行くときは、家庭の事情ですけど、必ず子供は同伴するという形で、小さい子、一番下の子は連れていけるので、中に入ってまでやっていますけれども、そういう姿を見せていくということがとても大事だと思いますので、今回、規制が少し緩和されて、同伴というのがよくなる、可能だということはすごくいいことだと思いますので、積極的に子供さんたちを連れていってもらいたいなと思っています。

記者： 参院選に絡んで、しばらく前からマニフェストという言葉を使わなくなって、今回は民進党さんもマニフェストという言葉をやめようと明確に打ち出して、国民との約束だったっけな、というような言葉にしました。市長はマニフェスト選挙の第一人者であると思うんですけども、マニフェストというのはもう時代遅れなのか、それとももうちょっとマニフェストというのをもう1回見返すべきであるのか、お考えを聞かせてください。

市長： 僕は名称は何であってもいいと思います。名称は何であってもいいんですが、その内容はやはり進化をし続けないといけないだろうなということは、これは毎度このマニフェスト議論になるときにお話ししていると思うんですが、さらなる進化を遂げてほしいなというふうに思います。いわゆる、抽象的なものから、より詳細の、財源の裏づけもとかというふうな話でこれまで進んできたと思いますけれども、いわゆる国政でのマニフェストの失敗を含めて、それぞれ失敗と、功罪いろいろあったと思いますから、さらなる選挙ごとに国民にとってわかりやすい選択肢を示せる責任あるマニフェストなり、約束なりというふうなのを期待したいと思います。

記者： ありがとうございます。

《ブランドメッセージについて》

記者： よろしいですか。皆さんの質問とは全く違う、今回6月議会を傍聴していて、私として一番気になったのがブランドメッセージで、議員さんいわく、突然ロゴが出てきたという話なんですけど、これは何でこういうことになってしまっているんでしょうか。

市長： やや僕も不思議だなと思っている部分は、突然という話でもなく、それぞれの委員会とかにこれまでも報告してきていることですから、一部そういう声があるというのはやや不思議には思っていますけれども。

記者： じゃ、これまでも委員会には報告されていたのに……。

市長： もちろん。

記者： 突然という。じゃ、あれですか、議員さんは2月とおっしゃっていましたが、その前にもロゴをつくります的な話はされていたということですか。

市長： ロゴつくりますというか、いわゆるブランドメッセージについてのことというふうなのはずっと報告してきた。

記者： そのいわゆるメッセージ、キャッチコピーみたいなものをつくるかと思っていたら、ロゴも新しくしますって言われたことが非常に驚きだったようなんですけど。そのあたりはちゃんと市議会ともんだりとか、そういうことはされたんですか。

市長： というつもりでありますけれども、認識が違うといえ、それは受けとめなくちゃいけないというふうには思いますけども。

記者： 担当課ではこの夏にもということなんですけど、何か具体的にもうスケジュールって決まっているんですか。

市長： いや、スケジュールはまだ決まっておりませんが、決定次第、またお知らせしたいなとは思っています。

記者： あと、私も具体的にどういうことを指しているのかあれなんですけども、市民不在、70周年のときの決め方とは随分違うということを指摘されていたんですけど、そのあたりは、どうして今回はそういうプロポーザルで業者さんが、業者と市の職員とが中心になって決めていくという手法にされたか、何か理由ございますか。

市長： 市の職員の内部で決めたというふうな話ではないので、いわゆる有識者の皆さんからも意見を聞いたりとかって、その都度、報告もしてきましたので、何か、こちょこちょとやっているというふうなことではないので、そこは誤解のなきようにいただきたいなというふうには思いますが。

記者： 一応、じゃ、市民の方の意見も聞いてということですか。

市長： いわゆる、何ていうんですか、調査という形ではやらせていただいております。

《県立高校の入試について①》

記者： わかりました。ありがとうございます。

あと、ごめんなさい、またちょっと別な件で。高校入試のミスの中で、県教委がこの前、県立高校では来年度からというような話がありましたけど、市としてはまだ今のところ、特に具体的な対応策のようなものは決まっていらないのでしょうか。

市長： いや、ちょっとこの県教委の話の決定は私もやや驚きを持って聞きましたけども、報告を。というのは、川崎市にも市立高校がありますので、その影響というふうなのが当然出てきますので、受検生の立場からすると、県立高校の受検の方式と市立高校の受検の方式が違うというふうなことで、これは影響はすごく出てきてしまいますので、やや、えっというか、もう少し市教委、あるいは横浜も、横須賀もですね、市立高校を持っていらっしゃるから、そういった意味ではもう少し川崎市教委もそうですし、ほかの都市の教育委員会との意見なりというふうなのは聞いていただきたかったなというふうに思います。

今回の話、いわゆる採点ミスからということですので、採点ミスをしっかりとないようにしていくという取り組みは、それは当然必要なことですが、その対応策については県立高校だけにはとどまらないので、ちょっと僕は、突然というか、あの決定にはやや驚きと思っています。

記者： 特に今のようなご意見を県教委に伝えたとか、そういうことはございますか。

市長： 僕は、正確にきのうだったか、おとといだったかに、市の教育委員会からその報告を、決定したのはいつだったですかね。おとといだったでしょうか。その次の日ですから、多分……。

記者： 21に策定、正式に。

市長： 正式に。だから22日、翌日にその報告を教育委員会から受けましたので、これ、ちょっと、まず川崎市の教育委員会としてもしっかりとこの話、議論を早急してくださいというふうな話はしました。そこの調整は、あまり私が越権みたいなことがあってはなりませんので、そこは慎重にやりたいというふうには思いますが。ただ、川崎市の児童生徒に影響があるものですから、そのことについてはその立場から申し上げたいことは申し上げたいというふうには思います。

記者： ありがとうございます。

《海外の視察について》

記者： 県知事のリオ五輪視察についてなんですが、ちょっと調べたところ、神奈川の黒岩知事はみずから行ってくると。千葉の森田知事は以前から事務方が行くことが決まっていた。静岡の川勝知事、視察を取りやめることを検討していると一応言っているらしいんですが、リオ五輪に限らず、海外視察のあり方について、市長のご見解をちょっとお聞かせいただきたい。

市長： ことしも私は来月、韓国プジョン、それから秋にイギリスを予定しております。あと9月にも中国というのが入っております。それぞれに明確な目的と、やるべきことというのが決まっておりますので、それに応じた対応をとっていきたいというふうに思います。

特に川崎市は他国、他都市との、海外の都市との交流というものは非常に多いところですから、特に経済ミッション系は非常に多いので、頻繁に職員が海外に出ています。費用についてはこれまでどおりしっかりと適正になるように心がけたいというか、一層の注意を払っていきたいというふうには思っています。

記者： ありがとうございます。

《舛添都知事辞職について②》

記者： すいません、また舛添さんの問題に戻るんですが、これだけ騒動が長期化して、またこれだけ騒がれた理由というのをどのように分析していらっしゃるのかということと、あのケースは完全に身から出たさびではあると思うんですが、ご自身に教訓になった部分というか、他山の石としようと思った部分があれば、教えてください。

市長： うーん、ちょっと、最初この会見の場でも、最初のたしか発端がファーストクラスとスイートルームの話から始まって、あの話は何となくくだらないというふうな発言、僕したと思うんですが、あれから出てきた問題についてはややちょっとびっくりする部分もあって、なかなかコメントは難しいですけども、いつも言っていることですが、結局、個人事務所なり政治団体がやっていることであっても、その責任というふうなのは政治家本人の責任は免れないわけでありますから、こういった問題が出るたびに思いを新たにしていますけども。しっかりとやっていかなくちゃいけないというふうには思っています。

記者： ありがとうございます。

《県立高校の入試について②》

記者： ちょっと確認なんですけど、さっきの教育委員会の話なんですけど、有識者の改善委員会が6月中にその内容で報告するということみたいなんですけど、入試の。市長が驚いた、ちょっと問題だなと思われたというのはどの辺の部分……。

市長： いわゆるマークシート方式にするというふうな話で、選択式の問題についてはマークシート方式だと。それ以上にまた、何か自分が答案用紙をコピーして、それを全員に送付するというふうなことも決定事項の1つだというふうに聞いたので、それはすさまじい事務量になるんじゃないかなと。その当然検討はされたと思うんですけども、これ同じ対応となると、これまた、えっということもありますし、再発防止と何か、ちょっと、私としてはちょっと唐突感があるなというふうなのは思っております。

記者： 要するに、市教委に対してそういう相談というか、事前のあれがないということじゃなくて、その中身自体もということですか。

市長： 中身自体というか、中身自体も議論はあると思います。決定に際しては、先ほど申し上げたように影響が出るものですから、県教委が決めたからということで、私ども引っ張られるということになりますから、そういった意味での調整はしっかりとやっていただきたかったなど。実は今回、川崎市は実際に採点ミスがあったものですから、この県教委との一緒に取り組んできたというふうな部分があるので、だからこそ、もう少しちょっとすり合わせというか、ものがあってもいいんじゃないかというのが私の考えです。

記者： 22日に市の教育委員会から市長に報告があったときには、市の教育委員会も同じような認識で市長に報告されたんですか。

市長： いや、それは教育委員会が、これは困るとか、ああでもないとかいうふうな話は市教委からはありません。事務局からはないですけども、その報告内容を聞いて私が思った実感ということです。おそらく、他都市のことを言ったら申しわけないですけど、横浜市は採点ミスなかったですから、今回の話は全く寝耳に水なんじゃないかなと。学校数も多いので、より影響は大きいと思いますから、そういった意味では、ほんと大丈夫かなという感想を私は思っております。市教委は別にそのことについてどうのこうの言っているわけではないですけども。

記者： 市教委と県教委は相談していたわけじゃないんですか、そういう中身については。

市長： というふうには聞いておりません。はい。

記者： わかりました。

《職員の不祥事について》

記者： よろしいですか。聞くのを迷ったんですが、やはりちょっと聞いておこうかなと。先ほど報道発表で市の職員が逮捕されたという事案がございまして、先日もまた全然別件で、ただ、ある程度中堅どころのベテランの方なのかなと、年齢を拝見すると。以前の会見でも綱紀粛正みたいなことをおっしゃっていましたが、なかなかそのあたりが難しいのかなと思うんですけれども、ちょっと続いていることへの所感と、今後について。

市長： ほんとに、ちょっとこの場でも繰り返し申し上げていることなので、市民の皆さんにほんとに申しわけないというふうな気持ちでいっぱいです。こういう不祥事が起きますと、市政全般にわたっての信頼感が損なわれるという意味では、非常に悔しいというふうな思いと同時に、市民の皆さんにほんとうに申しわけないという気持ちでいっぱいです。

私も、今日の案件は先ほど第一報が入ってきたばかりですので、ちょっと詳細についてまだよくわかっておりませんが、

《川崎フロンターレについて》

記者： 1点だけ、すいません。スポーツの話なんですけど、フロンターレが、土曜日は市長行かれるんですか。

市長： 行きます。

記者： かなり、でも、今回は土曜日の段階でかなり厳しい状況にあって、かなり難しい状況と見られるんですが、それも含めて、次への第2ステージの展望も含めて、一言。

市長： いや、第2ステージというより、まず第1、ファーストステージを優勝を勝ち取るというところしっかりと応援していきたいというふうに思います。

記者： 逆転があり得るという。

市長： はい。それを期待して声出していきたいと思います。

記者： 仮にもしそういう形で第1ステージが優勝した場合は、すぐに来週はもう第2ステージに入ってしまうんですけど、何かされるんですか。

市長： まず、例えばお祝い事とかというふうな話だと、全てのファイナルステージというか、チャンピオンシップを終わってからということなので、とにかく第1ステ

ージが終わって、次の第2ステージまで1週間しかないので、そういうような状況でもないというふうなことだと思いますので。

記者： まずは土曜日、じゃ、応援すると。

市長： はい。

記者： わかりました。ありがとうございました。

司会： よろしいですか。

市長： ありがとうございました。

司会： 以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355